

# 事業報告

## 公益目的事業

寄付森林の適切な持続的管理を通し、吉野林業の森林育成技術の継承・発展及び森林に関わる環境教育の推進による一般社会への啓蒙を推進しつつ、その収益により学術研究活動の奨励及び振興を図る公益目的事業を以下の通り実行した。

### 1 学術研究者に対する研究助成金交付に関する事業

森林に関わる学術研究および技術研修、医学・看護の特定活動に対して下記のとおり助成した。

事業科目 (学術研究助成 3件)	決算額(円)	事業内容	公募等の形態
1) 筑波大学・生命環境系 准教授 興侶 克久	400,000	水源涵養機能を最重要視した水源林経営の再編過程: 全国の水道事業者を対象に	奨学寄付金
2) 京都大学・農学研究科 特定助教 正岡 直也	400,000	森林流域における基岩内の亀裂を伝った雨水浸透プロセスの解明	奨学寄付金
3) 近畿大学・農学部 講師 田端 敬三	355,000	下鴨神社糺の森の植生構造に対する大規模台風被害の影響	奨学寄付金
小 計	1,155,000		

事業科目 (特定活動助成 2件)	決算額(円)	事業内容	公募等の形態
1) 京都大学医学部附属病院 看護部長 井川 順子	300,000	ユマニチュードケア技法の導入	奨学寄付金
2) 京都大学フィールド科学教育研究センター 技術専門員 山内 隆之	300,000	森林施業遂行の為の森林管理技術取得及び知識の向上	奨学寄付金
小 計	600,000		

合 計 1,755,000 円

### 2 森林に関わる学術研究に関する事業

当奨学会が管理・所有する森林は吉野林業地にあり、高齢樹・高品位の優良材の産地である。しかし、近年の林業の衰退により、高齢樹の人工林育成の技術の継承が困難となっている。育成技術は熟練者の持つノウハウとして蓄積継承されてきており、学術的には未解明の部分が多く、技術指針としてマニュアル化することは重要な課題として地域の発展に必須のものである。そのため、奨学会では森林の生育過程をモニタリングする継続的な調査プロットを杉谷山林の第1～第12林班に設置し、学術調査を行っている。この調査資料をもとに高樹齢の人工林育成技術の解析を行った。

### 3 寄付森林の管理運営に関する事業

当奨学会の森林を環境との調和を図りつつ、持続的な木材生産のために管理し適切な奨学のための収入を確保する事業を行い、森林育成に必要な造林(保育)、調査、施設整備事業を下記のとおり実行した。

事業科目	決算額(円)	事業内容
造林事業	1,819,072	杉谷山林第3林班 スギ、ヒノキ除間伐
調査事業	2,584,989	杉谷山林第3林班 スギ・ヒノキ立木(間伐木)選木調査・入札
施設整備事業	2,353,222	杉谷山林作業道拡幅工事、砂利運搬敷均し、崩土除去、路面横断溝修理歩道修理等

小 計 6,757,283

事業科目	決算額(円)	事業内容
賦課金	0	
協力金	100,000	東吉野村杉谷区と申し合わせによる支出
分担金	0	地上権設定による契約土地所有者に分担金
減価償却費	218,295	

小計 318,295 円

合計 8,830,578 円